

2021 (令和3年) 1/22 金曜日

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp

小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ
購読お申し込み

0120-468-012
(6-21時、一部地域は平日10-18時)

定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円) ・1部70円



進むスマート化



(※) 日本文教出版 小学社会5年より

情報弱者の記者

佐木さんまえら

一月二十二日、点字毎日の記者であり論説委員でもある佐木さんにオンラインインタビューする機会を得た。インタビュしながら、佐木さんのインタビュの内容と社会の教科書で読んだことが重なっていることに気がついた。そこで私はその内容について記事を書くことにした。その内容とは色々な場面で活用されている「スマート化」のことである。

現在あらゆる分野でスマート化が進んでいる。例えば、畜産業では温度センサーで母牛の体温を測り、妊娠が可能な時期や出産する時期を管理している。農業ではパソコンやスマートフォンを使い、農業用水を給水栓で管理している。自動車では自動運転が進んでいる。家電では、外出先から風呂をわかしたり、エアコンをけたりできる。さらに情報弱者の生活でもスマート化が進んでいる。点字毎日の記者であり、論説委員でもある佐木さんにインタビュする機会を得た。佐木さんは目が見えない情報弱者である。佐木さんは一人で始めての取材にも取材に出かける。ぶつかった時にけがをしないように眼鏡を着用し、自杖を持つことに加えて、取材に出かけるときはスマートフォン、ICレコーダー、スマートフォンのメモ機能などを

持っていく。これらは取材するときに使用する。スマートウォッチは手ぶらで済ませて切符が買える場合も、それをかざせば改札も通ることができる。メモ機能は取材したことを点字でメモできる機械である。ICレコーダーは取材した人の声を録音することができる。スマートフォンはメモ機能と連動し、メモしたことを読み上げる。このように佐木さんは、多くのスマート機器をよく使っている。佐木さんは、休みの日にも便利な機器を利用してテレビ番組や映画を楽しんで、リラックスしている。佐木さん以外の情報弱者にも、便利な機器をもっと使ってもらいたい。そのためには点字毎日で便利な機器の情報をもっと提供したい。

【柏原清花】

伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社は、緑豊かな皇居のほとりにある。本社が入るパレスサイドビル(東京都千代田区一ツ橋)の屋上には、6羽のハトの像が置かれている。ビルの設計者からの依頼で制作されたというが、なぜハトの像なのか。今のように交通や通信が発達していなかった100年ほど前、「伝書鳩」は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの帰巣本能を活用。東京の各新聞社では100羽以上のハトを屋上で飼っていた。取材現場から原稿を送るときは、ハトを数羽つれていったという。記者は通信用のうすい紙に記事を書き、長さ4センチほどの筒に入れてハトの足につけて放った。写真フィルムは長さ10センチほどの筒に入れ背中

新聞社にもどるとハト係が記事や写真を担当に渡した。ハトたちは原稿やフィルムを何百枚も運んだ。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど出勤回数が多かった。成績が悪かったハトは、運動会を盛り上げるためにくす玉から飛び出す役をつとめたという。毎日新聞では、東京オリンピックの次の年(1965年)まで大活躍した。「なるほドリ」の尊敬するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりは今も受け継がれている。



背中に写真フィルムをいれる筒を背負った伝書鳩。原稿は筒の中に入れて、新聞社に戻る時、タカに襲われる危険があり、複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ。